

岡山フルートの会の皆さん、こんにちは。東京都交響楽団の小池郁江です。私は去年の9月からオーケストラをお休みさせていただき、アフィニス文化財団の海外研修員として、ドイツのミュンヘンに留学しています。と言っても、1年間の留学を終え、実はあと5日後には帰国を控えています。留学前から星島先生には、「是非フルートの会の皆さんに、留学レポートを送って下さいね」と言っていたのですが、書こう書こうと思っているうちに、あっという間に1年が経ってしまいました。。。すみません。。。この1年を振り返って、少し書いてみたいと思いますので、よろしかったらお付き合いください。

ミュンヘンに到着したのは去年の9月1日でした。ミュンヘンでは毎年8月末から、世界トップレベルのコンクールである、ミュンヘン国際音楽コンクールが行われていて、去年はチェロ、ホルン、そしてフルート部門が開催されるということで、聴きに行くのを大変楽しみにしていました。そして実は日本を立つ前に、フルート部門のセミファイナルの課題である、モーツァルトのフルート協奏曲の伴奏をするオーケストラから、もし空いていたらセミファイナルのオーケストラに乗ってくれないかと連絡があり、空いているのも何も、聴きに行こうと思っていたので、喜んでお引き受けし、ミュンヘンに着いた翌日からそのリハーサルに参加する、という慌ただしい中で、私のミュンヘン生活は始まりました。お恥ずかしい話、ドイツ語の勉強は十分に出来ていない状態だったので、リハーサルでは指揮者の言っていることを理解するのに必死で、全く余裕がありませんでしたが、さすがにレベルの高いコンクールなので、セミファイナリストそれぞれが異なる面で魅力的で、その演奏をお客さんとして聴くのではなく、オーケストラの内側から共演するという形で聴けたことは、貴重な経験でした。

そして、このコンクールのファイナルで伴奏をしたのが、これも世界トップクラスのバイエルン放送交響楽団で、私の先生、ヘンリック・ヴィーゼ先生が首席フルート奏者を務めておられるオーケストラです。フルート部門のファイナルは、別のオーケストラが伴奏をしたのですが、チェロ部門はバイエルン放送響が共演し、課題曲がドヴォルザークの協奏曲だったためソリストとフルートの絡みがたくさんあり、私はファイナリストの素晴らしさもさることながら、ヴィーゼ先生のあまりの素晴らしさに耳を奪われたのを今でもはっきりと覚えています。当時、先生の演奏を生で聴いたのは、留学前にレッスンを受けて以来、半年以上ぶりだったので、ファイナルを聴きながら、ミュンヘンに来たのはやはり間違っていなかった、と確信した瞬間でした。

そうして私の留学生活が始まったわけですが、ヴィーゼ先生は今、学校で教えていらっしゃるのではないので、私は完全にプライベートの生徒として、週に1~2回、先生のご自宅でレッスンを受けていました。ヴィーゼ先生のレッスンは、音程の練習、基礎の練習、音色のトレーニング、それにオーケストラ・スタディー、フルートソロ、室内楽と多岐にわたり、レッスンの度に先生の賢明さ、頭の回転の速さ、アイデアの豊富さ、そして先生がお手本に吹いて下さるその演奏の素晴らしさ、音色の輝き、それら全てが私にとって本当に圧倒的でした。レッスンの度にあまりにも打ちのめされていた私は、「先生のような方がフルーティストであるべきで、先生のように吹ける人がいるなら、私はもうお客さんでいいかも…」と本気で思った時期もありましたが、そこはなんとか立ち直り(苦笑)、ヴィーゼ先生のもとで1年間勉強してきました。

そして、レッスン以外の時間は、演奏会を聴きに行くのはもちろんのこと、語学学校に通ったり、仲間と室内楽をやったり、ほんの少しですがオーケストラのエキストラのお仕事をしたり、ドイツ国内外を旅したり、とても充実していました。そして、特筆したいのは、ヴィーゼ先生のおかげで、バイエルン放送響のリハーサルをいつも聴かせていただいていたことです。オーケストラで吹いている者としては、世界一流のオーケストラがどのようなリハーサルをしているのか、内側を覗けるのは本当に願ってもないことでした。

先生のオーケストラは、月曜から水曜までの朝から夕方までリハーサル、木曜の午前中にゲネラル・プローベ(総練習)、夜に本番、金曜は夜の本番のみ、土日が休み、というシンプルなサイクルで(たまに演奏旅行や、特別演奏会で例外もあります)、素晴らしいのは、3日間のリハーサル全て、本番をやるホールで行うことです。日本のオーケストラでは、一部のオーケストラを除いては、なかなかできないことです。そして、オーケストラが一流なら、指揮者やソリストも一流で、バイエルン放送響のシェフであるM.ヤンソンスをはじめ、S.ラトルやF.ヴェル

ザー＝メスト、ヴァイオリンの F. ツィンマーマンやピアノの M. ジョアン・ピリスなど、シーズンを通して注目の公演が続きました。

私はドイツ滞在中、本当に色々なオーケストラを聴きました。ミュンヘンでは、バイエルン放送響と並んで人気の高い、ミュンヘン・フィルの演奏会も何度も聴きましたが、ミュンヘン以外にも、ベルリン・フィルを聴きにベルリン、ウィーン・フィルを聴きにウィーン、ゲヴァントハウス管弦楽団を聴きにライプチヒなどなど、ここには全て挙げられませんが、本当にたくさん聴いたうえで、やはり私にとっての一番のオーケストラは、バイエルン放送響です。弦楽器の信じられない美しさと各楽器のバランスの良さ、管楽器はコンクール受賞者だらけで(首席奏者でなくても)、どんなパートのどんなソロでもがっかりさせられないことがない、それでいて、トゥッティの時のハーモニーの美しさはなんなのだろう、と。素晴らしい協調性で、いつも、そのバランスしかないよね、という本当に狭いポイントにぴったりとはまってきます。ソロを聴いていたら本当に素晴らしいのにハーモニーが揃わない、とか、その逆に、ハーモニーは美しいのにソロになると失望させられる、というのはよくあることですが、バイエルン放送響には、よそのオーケストラで首席奏者を務めている人が、トゥッティや2番奏者でもいいから、と言ってオーディションを受けにくる、ポジションを変えてでもこのオーケストラでプレイしたい、と思わせるだけの魅力がある、ということなのです。そんなオーケストラを、そして私自身も心から素晴らしいと思えるオーケストラを、こうして1年間通してずっと身近に聴けたのは、私にとって何にも代えがたい時間でした。

そして私のミュンヘン生活を語るうえで欠かせないのが、オペラ。ミュンヘンには、街の中心部にバイエルン州立歌劇場があり(実はヴィーゼ先生は数年前までこの歌劇場の首席奏者を務めておられました)、ここには本当に数えきれないくらい通いました。世界一流の指揮者、そして歌手陣が次々と登場して、完売になってしまう公演も少なくありませんでしたが、公演当日の開演1時間ほど前から歌劇場の前に行くと、チケットを売りに来る人がちらほらと現れるので(何らかの理由で公演を聴けなくなった、とか、連れが来られなくなって1枚余っている、などの理由)、私はそういう人を見つけて声をかけ、ちょっと値切り交渉をして、成立したら買う、という方法で、チケットを手に入れていました。歌劇場ではほぼ毎日何らかの演目で公演があるので、私の場合、よほどのことがない限りオペラのチケットは前もって買わず、当日気が向いたら、今日は元気だから5時間でも聴けそう、とか(笑)、今日は練習したいからオペラはやめておこう、というふうに成り行きで通っていました。思い出に残っているオペラは、R. シュトラウス「バラの騎士」や、メシアンの大作「アッシジの聖フランシスコ」、バレエでは、ラヴェル「ダフニスとクロエ」や、リムスキー＝コルサコフ「シェエラザード」、そしてフルーティストが急病で、ヴィーゼ先生が急遽エキストラで乗ったプッチーニ「ラ・ボエーム」など、本当に素晴らしいものをたくさん見ました。公演チケットは、どんなに高くても1万円台のものから、立ち見だと千円以下のものもあって、日本では考えられないくらい気軽にオペラを楽しむことができます。私はなるべくたくさんオーケストラの演奏会やオペラに行きたかったのですが、オペラはいつも安い席で聴くことが多かったのですが、意外に立ち見席のほうが、字幕、舞台、ピットの全てが見られるので、一石二鳥でした。日本でもヨーロッパのようにもっと気軽にオペラを見ることができる環境ができるとよいですね。オペラといえば、イタリアに旅行した時に、ヴェローナの野外劇場(アリーナ)でヴェルディ「椿姫」を見たのも貴重な体験でした。

こんな風に毎日過ごしていましたが、1年経って今思うのは、やはり留学できてよかった！ということです。もともと大学を卒業したら留学したいという気持ちはありましたが、まさか大学在学中にオーケストラに入団できるとは思っていなかったもので、東京都交響楽団に入団してからは、しばらくオーケストラに慣れるまでは留学できないな～、と思っていました。が、そうこうしている間に時間が経ち、年齢的にもそろそろ最後のチャンスなのではないかと思い、今回の留学を決めました。素晴らしい先生に出会えて、素晴らしい環境の中で過ごした1年間は、この先の私の音楽生活においても心の拠り所となるに違いありません。少しでも休みができたなら、またミュンヘンへ行きたい、と今から思っています。会員の皆様で、まだミュンヘンに行かれたことのない方がいらっしゃいましたら、ぜひお勧めいたします！ミュンヘンは観光にも大変人気で、音楽はもちろん、歴史的な建物、数々の美術館、そしておいしいビール(笑)、などとても魅力的な場所です！

最後まで読んでくださって本当にありがとうございました。また岡山の皆様とお会いできる日を楽しみにしております！